

災害拠点病院における防災訓練実施報告

—コロナ禍に対応した訓練の試み—

法人名	国家公務員共済組合連合会
病院名	横須賀共済病院
職種・所属	看護師・B棟2階病棟（防災・災害対策委員会）
発表者氏名	種山和枝
共同者氏名	山形理恵

【はじめに】

当院は病床数 740 床の総合病院であり、災害拠点病院の指定を受けている。大規模災害時には多数の傷病者を受け入れ、地域医療を支える役割が求められるが、職員にその意識が根付いているとは言いがたい。これまで当院の防災・災害対策委員会は、年 2 回の防災訓練を実施してきた。70 人程度の職員が一堂に会し、消火訓練、避難訓練、本部立ち上げ訓練、災害時初動机上訓練などを行ってきた。

しかしながら 2020 年度、新型コロナウイルス流行により、これまで実施してきた訓練方法の見直しが必要となった。さらにこの年は、院内の災害医療マニュアルの改訂が行われ、新たなマニュアルを周知するためにも訓練の実施は必須であった。感染防止の観点から、多数の職員が集合することなく訓練を実施し、災害拠点病院職員としての意識を高め、更に改訂されたマニュアルを周知できる訓練方法として、『院内防災ツアー』を発案し実施した。これにより参加職員に防災に対する意識の高まりが見られたためここに報告する。

【方法】

院内の防災に関する設備、多数傷病者受け入れ経路、被爆患者受け入れ場所など、災害時に備えて職員が知っておくべき場所 6 か所を、改訂版のマニュアルを持って巡るツアーを実施した。1 グループ 10 人程度とし、時間帯と巡る順路を分けた。ツアーには改訂されたマニュアルの重要ポイントが周知できるよう、防災・災害対策委員がガイドとして同行した。

【結果・考察】

訓練には 11 職種 81 名の参加があり、8 グループに分かれ、ツアーを行った。実施後のテストの結果は、回答者数 72 名。正答率 85%。今回の取り組みにあたり、当院職員に周知したいポイントの一つが、マニュアルに記載されている「自主参集」の項であった。大規模災害においてはマンパワーが重要である。今回のツアー参加者は自主参集基準に関して、十分な理解とまでは至っていないが、自主参集が当院のマニュアルに記載されており、その場合はどこに参集するのかを知ることができた。また、普段立ち入ることのない、食料備蓄倉庫や、ボイラー室を巡り、自家発電のしくみなどの説明を受け、当院の防災対策への課題を感じる職員もいた。いずれも実際の現場を巡り、自分の目で見て気づくことで、防災への意識を高めることにつながったと考える。